平成２１年７月１日
No.４

学校だより

～　塩っ子の夢と希望を育むために　～

高松市立新塩屋町小学校
ＴＥＬ　８５１－２０１１
ＦＡＸ　８５１－２０５９
e-mail　e-sinsio@edu-tens.net

高松第一学園の開校に向けて

校　長　　池田　　保

平成２２年４月の小学校の統合に向け，新塩屋町小・築地小・松島小の関係３校が，３年前より宿泊学習を３校合同で行っています。先日は，子どもたちが松島小学校（新校舎）に集まり，顔合わせやグループでの役割分担を決めたり，キャンプファイヤーの練習を行うといった準備を進めてきました。

宿泊学習１日目は，朝からの雨のため，予定している活動ができるだろうかといった心配がありましたが，日中は雨も上がり，３校合同のグループでのフライングディスクゴルフやいかだづくりを行いました。丸太をひもで組んだり，ブイをひもでしばったりすることに悪戦苦闘しながらも，互いに声をかけあいながら，協力して活動できていました。完成したいかだに乗って沖にこぎ出すと，どのいかだも折り返し点に達し，新塩屋町小のいかだが，ゴールの海岸にワン・ツーフィニッシュとなりました。指導員の先生の話をよく聞き，友だちと心を合わせた成果であったと思います。夜のキャンプファイヤーは，小雨の中での決行としましたが，各校の趣向をこらしたスタンツがあり，ファイヤーを囲んでの楽しい一時を送ることができたと思います。

大きな事故やけがもなく，２日間の活動を終えました。子どもたちの感想からは，心に残る思い出とともに，自然の中での２日間の集団生活から，自然の力強さや友だちと協力すること，感謝する心などを学ぶことができたといえます。統合後も，一夜を過ごしたこの宿泊学習での思い出を語り合う姿が見られることを願っています。

閉校記念祭　　～４つの門柱～

本年４月に閉校記念事業実行委員会が組織され，保護者の皆様や地域の方々により，記念誌の製作，記念式典の準備，記念事業の計画が進められていることをありがたく思っております。

地域の会合の席で，「この新塩屋町小学校に昔から残っているのは，門柱と玄関前のソテツだけだな。」「地域の中から学校がなくなるのは寂しいものだ。」「３世代にわたって新塩屋町小学校にお世話になりました。」等といった声からは，地域の方々の深い思いを感じています。

また，子どもたちは統合前のこの１年間を大切にし，日々の学習や生活に取り組んでいます。その中で，新塩屋町小学校で過ごせてよかったという実感をより確かなものとしていくために，新塩屋町小学校のルーツを探り，時代の流れとともに，その歴史と伝統を心に刻み，新たなる学びの場としての高松第一学園につなげてほしいと考えています。

＜鶴屋町小学校の門柱＞

そこで，鶴屋町尋常小学校から現在に受け継がれ，歴史とそこで学ぶ子どもたちを見守ってきた正門の門柱をモチーフとし，１１月２１日（土），全校生と教職員，保護者・地域の方とともに，プチミュージカル「４つの門柱」を公開したいと考えています。シナリオとともに記念の合唱曲は，本校の卒業生であり，多くのミュージカルをてがけられ，数多くの受賞もされている白川　恵介さんに制作していただきました。

今後，保護者の皆様にお願いすることがあるかと思いますが，よろしくご協力をお願いいたします。

なお，閉校記念祭に合わせて，航空写真の撮影も計画しています。多くの皆様のご参加をお願いいたします。

ていくことが大切だといえます。また，前回調べたことや他の植物と比べたり，発芽や成長の条件を考えて調べるといった，目的意識をもって観察が大切であり，その記録を詳しく残していくこともるといえます。さらに，学校で学習していることと家庭での経験をつないでいくことも

そして，し（以前の様子や他の植物と比べる。発芽や成長の条件を考える），
かだの改善の視点として，る様子を観察し，「シシトウやミニトマトに大きな実がついているよ」「ヘチマの葉は２種類あって，色や手ざわりがちがうよ」等と言
いながら，ワークシートに発見したことを書いている子どもたちの姿が，校庭の花壇で見られます。また，ビオトープをメダカでいっぱいにしようと，教室にメダカを持ち込み，休み時間に水槽をのぞき込み，卵や子メダカを見つけて歓声をあげる姿が見られます。

動植物に対する子どもたちの思いを大切にしつつ，動植物にかかわる時間を確保し，新しい発見や生命のすばらしさ・巧みさについて話し合ったり，まとめたりする力を重視していくことがさらに求められています。ご家庭におきましても，自然とふれ合う機会や継続的な動植物の飼育・栽培の場をもっていただきたいと思います。自分で見たり・手で触ったりといった体験から学んだことは，子どもたちにしっかりと身についていくといえます。

生活科や理科の学習で学んでいる草花や野菜が日増しに成長しています。芽を出し，元気に成長してほしいと願い，手を合わしながら種まきをした１年生のアサガオは，自分の植木鉢の中で，ぐんぐんとつるを伸ばし，花が咲くようになっています。また，自分のお気に入りの野菜の苗を選び，育ててきた２年生のマイ野菜は，今，収穫の時期を迎えています。３年生はホウセンカ・ヒャクニチソウを育てながら植物の体のつくりを，４年生は気温の変化とヘチマの成長を，５年生はインゲンマメを育てながら発芽と成長の条件を，６年生はジャガイモを育てながら植物が自ら養分を作り出していることなどについて，具体的体験を通してそれぞれの学年の学習内容にせまっています。

今回の学習指導要領の改訂で，国際的な学習状況調査の結果や子どもたちの理科ばなれ・自然とのかかわりの減少等をふまえ，理数教育の充実があげられています。理科の目標においては，「～実感を伴った理解を図る」ということが示されています。この「実感を伴った」ということを子どもたちの活動から見ていくと，登校するとすぐに満水にしたペットボトルを手にして花壇に走り，日々の変化を見つけている低学年の姿から，自分の育てているアサガオや野菜に愛着をもち，自然の対象に主体的にかかわっ